

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300161		
法人名	有限会社サンテック		
事業所名	グループホーム小松崎あさひ園	ユニット名	1棟
所在地	宮城県塩釜市小松崎4-45		
自己評価作成日	平成 22 年 11 月 17 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の基本理念の唱和、介護の重点の唱和を日勤者全員で行っています。</li> <li>・日帰り温泉旅行を毎年ご家族とともに、温泉につかりながら一日のんびりと過ごしています。</li> <li>・年末は、臼での餅つき会を全員で楽しんでいます。</li> <li>・夏には、夏祭りを、他のグループホームと交流しています。</li> <li>・一日1回は、太陽にあたること、動くことをモットーにしています。</li> <li>・年2〜3回あさひ園名物、流しソーメンをご家族とともに楽しんでいます。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年12月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小高い丘に立地している2ユニットのグループホームである。家族会、運営推進会議での運営に力をそそぎ、家族、地域の人々と連携し、防災、環境、安全、啓発等知恵と工夫を話し合い行事への参加等実践に結びつけている。また、入居者と生活を共にしていく上で管理者の信条、取り組み姿勢が明確で、対応等について常に職員と話し合いレベルアップに努め、サービス面でも協働が図られていることがうかがえた。今年3月に園で初めて「看取り」を体験し、入居者全員でお見送りができたと話された。入居者の穏やかな暮らしぶり職員との暖かい見守りが感じられるホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 小松崎あさひ園 )「ユニット名 1棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に、「地域と共に支えあい、地域に根ざした園をめざします」の事項があり毎日、唱和し地域との関わりの大切さを意識出来ている。	独自の理念があり会議の中で振り返り、確認しその理念に添って職員個々に介護の重点を提起、検討の上、毎月掲示している。12月は「自分だったらと考える思考力とどう感じているだろうと考える想像力を持つ」とある	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回の運営推進会議、行事としてバーベキュー大会、での交流を図っている。今後は防災訓練なども一緒に行っていきたい。また地域中学校との職場学習会の場としても提供している。	地域との連携が密接である。バーベキュー大会、もちつき等ホーム主催行事への招待、地域避難訓練への参加、中学生の職場学習受け入れ、歌、踊りなどボランティアの訪問、社協企画の「高齢者まつり」でも交流している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームを運営していることはわかっているが、認知症への理解はまだまだ低いと思う。認知症への理解を深めてもらうよう交流会や勉強会等さらに充実していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、ご家族ともに気兼ねのない意見を出していただけるよう努力していきたい。	2ヶ月毎に開催し、市担当職員も毎回出席している。昨年地域代表の方が担当課に出向き会議への参加をお願いした事が報告されていた。会議の運営はとても活発であり、防災、環境、啓発、勉強会と多彩である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	時折、市町村担当者と話をすることはあるが、事業所全体の実情を分かっていたかと思う、今後もっと積極的な意見交換等していきたい。	今年度は毎回市担当職員が運営推進会議に出席し報告、助言しており、よい協力関係が築かれている。地域ケア会議、ケアマネネット等会議に参加し、地域包括支援センターとの情報交換、連絡もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何か、定期的に勉強会を行っている。全員が正しく理解し、身体拘束のないケアを維持していくため、今後も学習会を開いて、取り組んでいく。	玄関等施錠はしていない。入居者一人での外出も当たり前的事として認識しその人に合わせ、並んで歩いたり、後から歩いて見守ったりしている。薬を使用せず、言葉や身体拘束をしないケア等について管理者は職員の一層のレベルアップに力を入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の中で、虐待防止についての勉強会を行っている。その中で、誰にでも虐待する立場になってしまう可能性があることを学び、危機意識を持って取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての理解度はまだまだ低く、これからも、勉強会、研修等積極的に参加する機会を与えられるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査を含め、入居者やご家族と十分な話し合いを行い、納得していただいてから契約をしています。2週間のお試し期間も設けています。改定等の際は必ず家族会、個別の相談など、了解のもと行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の家族会、その他面会時にも意見を言って頂く機会を設け要望があれば、それを職員全体に周知している。また、苦情箱を設置し要望に答えられるようにしている。	家族会は2ヶ月毎に開催、ホームの運営、相談に積極的に関与している。職員の名前と顔が一致し難い声に関して、早速顔写真を貼りだし、月毎の便りでも家族に送付した。ホームでの食事会の希望も出されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議を毎週月曜日、介護部会議を毎月開催し、会議の議題として取り上げ、職員に反映している。	ホームの運営、サービスの実施等職員の意見、要望を聞く機会は多い。でこぼこの砂利道の舗装、清拭用のポット購入、車椅子対応車の導入などが提起され、また3ヶ月に1度運営等を自由に企画、提案する機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職務能力評価、キャリアパス導入等により職員の処遇改善に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な、部内外研修に参加し、日々のケアの向上のヒントにつながっている。研修者には、会議時に伝達するようしており、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック集会、地域ケア会議、ケアマネット等との交流等、質の向上に向けた取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査、カンファレンスに加え、日々のケアの中でも、ご本人の不安の解決のため必要なことは何かを職員同士の話し合いがとれている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人にとって必要と思われる、サービスについてはご家族の意向、意見を頂いたり、ご家族からの要望を理解するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じたサービスを、必要なだけ提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者イコール人生の先輩と捉えご本人の出来るところはご自分で、一人でうまく出来ないところは支援するようにしている。生活の知恵は我々の方が教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状態をこまめに報告し、ご家族から、昔のことを聞いたり、園からは、今の現状をお伝えして、ご家族からもケアのヒントを頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には積極的な面会をお願いしており、面会の少ないご家族には、毎月のお便りでも、面会を呼び掛け、馴染みの顔をお互いに見れる支援ができています。	法事、墓参り、盆、正月に家族と過ごす人、長年馴染んだ床屋さんに出掛ける人、入居前の通所施設に出掛ける人もいます。友人、知人との関係継続は難しくなっており、同法人や地域内のグループホームと交流しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が円滑にコミュニケーションをとれるよう、職員が間に入るようにしている。ご利用者同士の関係をこまめに観察し、さりげなく仲裁し、トラブルにならないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期療養のため退所された方のお見舞いに行ったり、死亡退所された方のお線香をあげに行くことはあるがその後のフォローまではなかなか難しい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意に添ったケアとなるようセンター方式のシートを使用して考えるようにしている。現状に満足せず、よりご本人の意向に添ったケアをして少しでも満足してもらえるよう支援する。	言葉での表現がその人の望む事と違ったり、やっていない事ができない事ではない事を職員は日々の関わりで経験しており、その都度記録し全員で情報を共有している。表情、仕草を見守り本音の引き出しに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の意見や意向、情報提供等をもとに、ご本人の今までの生活の延長線になるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々一緒に暮らす中で、また申し送り等で、個々のご利用者の状態については、把握できている。有する能力については、内に潜んでいる可能性を引き出せる関わりを続けていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の前には、必ず現場スタッフ、ケアマネージャーとカンファレンスを行い、プランの作成にあたっており、その方、その時に合ったプランになるよう努めている。	日々の関わりを通した課題分析を毎月職員と実施し、3ヶ月毎に見直している。医師の指示による食事のコントロールや、可能な場合は本人も会議に出席してもらい、求めているニーズ、変化に応じて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの記録は、できるだけ詳細に記録するようにしている。スタッフによってばらつきがみられ、職員全員が記録の重要性を認識出来るようさらに努力していきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれない柔軟な対応をしていきたいと考えている。それをサービスに活かすためには多くの知識が必要であるが、研修等さらに充実していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、外部のお祭等に参加することにより、地域資源を有効に活用できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は必ずご家族と相談し決めている。主治医を変えなければならない状況にある時は、その都度ご家族に相談している。	本人、家族が希望するかかりつけ医への受診支援が行われている。家族が同行する際にはバイタルなど書面のコピーや口答で情報を伝え、受診後は相談内容、指示、薬等を受診記録に記し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内には、看護職員がいないため、情報は受診の際に医師や看護師から情報提供を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には出来るだけ早期の退院の希望の旨を病院関係者に伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針を契約書にも明記し、入居者の変化に備えています。ご家族が看取りを望まない場合は、急変時には医療機関に委ねます。看取りの条件が備えられたら最後まで支援します。	「重度化した場合における(看取り)指針」が作成されており、入居時に説明している。ご本人、家族の意向のもと、今年3月に園として初めて「看取り」支援を経験している。最後に入居者全員でお見送りできたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回は救命救急講習を受け、緊急の場合に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施しています。そのうちの1回は夜間想定訓練を行っています。	消防署員立ち合いで年に2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。町内会の「防災マップ」も完成しており、家族の災害時への意識は高い。リヤカーでの避難、おんぶしての避難、誘導順序までも会議で図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何時でも尊敬の気持ちを持って、日々の言葉かけ、記録等、細心の注意を払いご本人の自尊心に配慮した対応するよう心がけている。	居室はご本人にとって「家」であることを全員で共有し対応している。荒げたり、困った時は本人が何を考えているか、思いの把握に努めるなど、尊厳、プライバシーの確保について管理者は力を入れて指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分から訴えかけの出来ないご利用者にもこちらから、希望や思いをくみ取って、働きかけ、園内の行事等については、意見を取り入れるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、ご利用者がのびのび生活できるような支援を心掛けています。業務に追われて職員のペースになってしまうこともある。そのような時は慌てず、業務よりもケアを優先するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや、着る服等もTPOに合わせて、選んでいただいている。自宅で、化粧することが日課だった方には化粧を勧めたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の体調や、できることを、見極めて一緒に行うよう努めている。月1回栄養士による食事に関する助言を受けています。	入居者のできそうな事を一緒に取り組むことで、巧みな包丁捌きなどの発見があり職員は感動するという。献立は職員が交替で作り、焼きそばをおかゆに変えたり職員の優しい気遣いが感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立等食事に関することを月1回栄養士に助言してもらい、栄養バランス、水分摂取に注意して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指導のもと、個々の状態に合わせた支援をしている。その都度付き添いながら、口腔ケアを行い義歯はポリドント消毒しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、訴えや、ご本人の仕草を観察しトイレ誘導を行い、不快な思いにならないよう気をつけています。	「買い物に行きたい」が排泄への欲求表現であったり、立ち上がる、テーブルを叩く等の仕草での表現を共有しトイレでの排泄につなげている。身体状況により夜間のポータブル使用者もあり、その人に合わせた支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケース記録により、水分摂取量を共有し、便秘によって心身共に悪影響を与えることを職員も理解し、栄養士の指導のもと食べ物等についても気をつけている。また運動(ラジオ体操)により便秘解消に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否のある時は、無理強いせず、時間をずらしたり、その時の体調に気を配りながら支援している。	午前中、午後からとほぼ一日おきの入浴支援であり、現在夜間での入浴希望はない。入浴を拒む人でも入浴した後は「気持ちよかった」と喜ばれるので、トイレの後でお誘いしたり、何回か声がけするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿って休憩ができるよう前日の睡眠状態やその日の様子を見ながら声がけしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表ファイルにより薬の効果、副作用があるのか職員全員が確認・理解できるようにしている。また必ずダブルチェックをして誤服用がないように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力や得意なことを活かせる働きかけを行っている。また希望があれば、個人個人に嗜好品の提供をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ散歩に行きたい方は、見守りのもと、安全に散歩ができるようにしています。買い物も希望があれば付き添い支援している。日帰り温泉入浴等、ご家族とともに参加しています。	季節毎に行事を実施し、温泉旅行や希望による光のページェントへの見物も実施している。通院、買い物、ドライブ、散歩、ベランダでのひなたぼっこ、塩釜神社祭礼への御参りと機会はあるが、今後は個々の満足をより高める外出の機会もお願いしたい。	「嫌がって出かけようとしませんが、出掛けた後は喜んでおり、楽しかったと話してくれる」とのコメントがある。より多くの人々の笑顔と満足のため家族会にも働きかけて、個々へのより楽しめる外出支援を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりおこずかいを預かり、本人の希望により買い物をしている。お金の管理は職員がしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙のやりとりをするご利用者はいないが、電話をかけたい希望の方や、ご家族からの手紙や、荷物が届いたりした時は、電話をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招かないようほとんど模様替えなどしていない。馴染みのもの、廊下に椅子をお置いたり、園の周りにはお花を植えたりと工夫しています、また温度管理、換気にも注意しています。	多くの時間を過ごしているリビングは窓が大きく、自然光が穏やかに差し込んでいる。キッチンで働く職員を目にしながらかち着く場所で居心地良く過ごす様子が見られた。正月飾り、雛飾りなど季節毎に馴染みの飾りつけで目を楽しませ今はクリスマスツリーである	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ファミリールームにおいては全員が、毎日顔を合わせる機会が多いため、食堂も利用してそれぞれが居心地の良い環境を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から馴染みのタンス、布団、写真、中には仏壇等も自由に持ち込むことができ本人が居心地が良いようにレイアウトしています。	遺影を飾り供え物をするなど落ち着いた生活の一端がうかがえた。自分の家としての感覚をお持ちの方も居て、職員が訪ねると「お茶も出さないで」と話されるという。持ち込みが少なく必要な時は園の予備で設えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には名前、共通場所には表示をするまた手すり等配置し、建物内はできるだけ、安全に配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300161		
法人名	有限会社サンテック		
事業所名	グループホーム小松崎あさひ園	ユニット名	2棟
所在地	宮城県塩釜市小松崎4-45		
自己評価作成日	平成 22 年 11 月 17 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の基本理念の唱和、職員が月の介護の目標にした、介護の重点の唱和を全員で行っています。</li> <li>・日帰り温泉旅行を年に1度ご家族とともに、温泉につかりながら一日のんびりと過ごしています。</li> <li>・年末は、臼での餅つき会を全員で楽しんでいます。</li> <li>・夏は、夏祭りを他のグループホームと交流しています。</li> <li>・一日一回は太陽を浴びること、動くことをモットーにしています。</li> <li>・外回りにお花を植えて皆で楽しんでいます。</li> <li>・年2~3回あさひ園名物流しソーマンをご家族とともに楽しんでいます。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小高い丘に立地している2ユニットのグループホームである。家族会、運営推進会議での運営に力をそそぎ、家族、地域の人々と連携し、防災、環境、安全、啓発等知恵と工夫を話し合い行事への参加等実践に結びつけている。また、入居者と生活を共にしていく上で管理者の信条、取り組み姿勢が明確で、対応等について常に職員と話し合いレベルアップに努め、サービス面でも協働が図られていることがうかがえた。今年3月に園で初めて「看取り」を体験し、入居者全員でお見送りができたと話された。入居者の穏やかな暮らしぶり職員との暖かい見守りが感じられるホームである。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年12月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名小松崎あさひ園)ユニット名2棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するために毎朝の朝礼で基本理念を職員全員で、たまには入居者さんも入って唱和し、毎日のケアの中で実践しています。	独自の理念があり会議の中で振り返り、確認しその理念に添って職員個々に介護の重点を提起、検討の上、毎月掲示している。12月は「自分だったらと考える思考力とどう感じているだろうと考える想像力を持つ」という	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、園での行事の参加への声かけ、町内や市の行事、への参加をしています。また日常的に、散歩時、外出時に挨拶を交わしたり、園に遊びに来られる等の交流があります。	地域との連携が密接である。バーベキュー大会、もちつき等ホーム主催行事への招待、地域避難訓練への参加、中学生の職場学習受け入れ、歌、踊りなどボランティアの訪問、社協企画の「高齢者まつり」でも交流している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にてご近所の方に園内の見学を声かけしたり、防災訓練を地域の方と一緒にしています。また地域の中学校の生徒の職場学習の場として提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、園の活動内容の報告、ご近所の方に園内の見学を声かけしたり、防災訓練を地域のメンバーの方と一緒にしています。その中で、認知症の方との交流や理解を深めています。	2ヶ月毎に開催し、市担当職員も毎回出席している。昨年地域代表の方が担当課に出向き会議への参加をお願いした事が報告されていた。会議の運営はとても活発であり、防災、環境、啓発、勉強会と多彩である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に何かある時は担当者の方に連絡報告しています。運営推進会議に出席いただき、園の近況報告や、市への問題提起や、要望の橋渡しをして頂くようしています。またキャラバンメートによる繋がりもしています。	今年は毎回市担当職員が運営推進会議に出席し報告、助言しており、よい協力関係が築かれている。地域ケア会議、ケアマネネットワーク等会議に参加し、地域包括支援センターとの情報交換、連絡もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりのペースに合わせ、その方らしく生活していただくために施錠や身体拘束は行っていません。また精神的ケアを行う上で、スピーチロックには十分注意しています。夜間は戸締りのために施錠をしています。	玄関等施錠はしていない。入居者一人での外出も当たり前として認識しその人に合わせ、並んで歩いたり、後から歩いて見守ったりしている。薬を使用せず、言葉や身体の拘束をしないケア等について管理者は職員の一層のレベルアップに力を入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加し、その内容を園内の勉強会で、報告して周知しています。職員どうして言葉づかいを注意し合ったり職員のストレスも溜まらないようにはどうしたら好いか話し合う機会も多いです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し必要なことは、部内研修や勉強会等により意識を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の実態調査からご本人、ご家族の方と十分話し合い、理解、納得の上で契約していただいています。改定時は、説明、相談、了承を得て行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	園内にご家族からの要望、苦情箱等設けています。それにもまして、家族会議等の場で本音の話し合いができる雰囲気が出ています。日頃より面会時等、受診時等にはコミュニケーションを密にしています。	家族会は2ヶ月毎に開催、ホームの運営、相談に積極的に関与している。職員の名前と顔が一致し難いの声に関して、早速顔写真を貼りだし、月毎の便りでも家族に送付した。ホームでの食事会の希望も出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議時、およびフロアミーティング等機会を設け、職員の要望、提案事項についての機会を設け、管理者会議、介護部会時において、要望等について広く意見を求めています。	ホームの運営、サービスの実施等職員の意見、要望を聞く機会が多い。でこぼこの砂利道の舗装、清拭用のポット購入、車椅子対応車の導入などが提起され、また3ヶ月に1度運営等を自由に企画、提案する機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている	職能評価において自己評価、管理者評価等を行い処遇等及びキャリアパスの導入にも積極的に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員には1ヶ月間の研修期間を設けています。また部外、部内研修等は年間計画を立て職員のスキルアップに積極的に取り組んでいる。資格取得に向けても推進しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会、ブロック集会、ケアマネネットワーク、地域ケア会議、キャラバンメイト等参加し、また地域の他の施設との夏祭り、いも煮会等の交流を通してサービスの質向上に向け取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時より、ご本人、ご家族から情報を収集し、要望を伺っています。その情報をもとに、どんなケアをしていけば良いか職員で話し合い、信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族は大きな不安があると思うので面会に来られた際は入所中の様子を、お話して安心して頂けるように努めています。ご家族からはなかなか要望等はないと思うので、こちらから働きかけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向を聴き、支援しています。必要によっては、他のサービスの利用を検討する等柔軟な対応をするようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や裁縫、食器洗い、洗濯物たたみ等を通じて日常的にご本人ができる場所は、一緒に行い、いつも一緒にいるという思いでケアを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族にお便りを送り、近況報告を行っています。園の行事などにご家族も参加され、一緒に楽しめる雰囲気を作っています。情報を頂く等共に本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも馴染みの方との関係が維持できるように、ご本人の希望があれば、面会や行事などへの参加など声がけしています。馴染みの場所へは、ドライブや外出の支援をしています。	法事、墓参り、盆、正月に家族と過ごす人、長年馴染んだ床屋さんに出掛ける人、入居前の通所施設に出掛ける人もいます。友人、知人との関係継続は難しくなっており、同法人や地域内のグループホームと交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格やご利用者同士の関係性を把握し、職員間で共有し、入居者さん同士が関わりあえる環境作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方とは、関係がほとんど断ち切れますが、入院退去、他施設へ行かれた方など必要に応じて相談情報の提供を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式により、基本情報、生活歴、病状歴、ご本人及びご家族の意向の把握に努めています。意思表示が困難な方には、言葉や表情等から思いをくみ取り本人の立場に立ったケアを心がけています。	言葉での表現がその人の望む事と違ったり、やっていない事ができない事ではない事を職員は日々の関わりで経験しており、その都度記録し全員で情報を共有している。表情、仕草を見守り本音の引き出しに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時等に、ご本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方について、十分な聞き取りを行い把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から、入居されている方を個々によく観察し、ケース記録、日誌、申し送り等により、ミーティング時に共有して把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、の意向を確認しながらおもに3ヶ月に1回、必要により主治医等の意見を踏まえて、また必要時カンファレンス、モニタリングを行っています。	日々の関わりを通した課題分析を毎月職員と実施し、3ヶ月毎に見直している。医師の指示による食事のコントロールや、可能な場合は本人も会議に出席してもらい、求めているニーズ、変化に応じて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、個人のケアノート、受診記録へ情報を記入し情報を共有しています。カンファレンス時、その情報を活かし、ケアプラン作成に取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じたニーズに対応するためご家族やご本人の希望をとり入れながら柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、タクシー会社、民生委員の方々に支援していただいている、ご本人が安全で楽しい暮らしをして頂けるよう支援しています。ボランティアの皆さんには慰問による感動を頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、歯科医院があり、定期的に受診しています。ご本人のかかりつけ医がある場合は意向を聴きながら優先して受診しています。	本人、家族が希望するかかりつけ医への受診支援が行われている。家族が同行する際にはバイタルなど書面のコピーや口答で情報を伝え、受診後は相談内容、指示、薬等を受診記録に記し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、今のところ配置していません。医療機関との相談、受診により対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合には出来るだけ面会に行くようにし、ご家族や病院関係者との情報交換、相談を行い早期退院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する方針を契約書意に明記し、た看取りに関する指針を作成しご本人ご家族に理解していただいています。ご家族の意向があり条件があれば看取りまで支援します。	「重度化した場合における(看取り)指針」が作成されており、入居時に説明している。ご本人、家族の意向のもと、今年3月に園として初めて「看取り」支援を経験している。最後に入居者全員でお見送りできたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や連絡網を作成していません。また年に1回は全職員参加で救命救急講習を受け、急変や事故発生時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・消防計画による、また年2回消防署の協力を得て防火訓練を行い、家族会、運営推進会議のメンバーも参加している。	消防署員立ち合いで年に2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。町内会の「防災マップ」も完成しており、家族の災害時への意識は高い。リヤカーでの避難、おんぶしての避難、誘導順序までも会議で図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を第1に、一人ひとりに敬意を払い接しています。プライバシーを守るための守秘義務を指導しています。	居室はご本人にとって「家」であることを全員で共有し対応している。荒げたり、困った時は本人が何を考えているか、思いの把握に努めるなど、尊厳、プライバシーの確保について管理者は力を入れて指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から何をすることもまづは、ご本人の意向を確認しています。普段の何気ない会話のなかにも思いや希望が込められている場合があり、ケース記録などにご本人の言葉を記入するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、外出買い物等も個別に行っていますが行事や、勤務体制によってはご本人に納得していただいた上で希望に添えないこともあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択はご本人に任せています。難しい場合には、聞き方などを工夫し、なるべくご本人の意向をくみ取れるようにしています。食べこぼし等で汚れた場合は声がけし、即時対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛り付けを一緒に行っています。誕生日や行事の際は食べたい物の希望を取って、食事は同じテーブルにつき、談笑しながらゆっくり1～2時間ぐらいかけて食事を楽しんでいます。栄養士の指導を月1回受けています。	入居者のできそうな事を一緒に取り組むことで、巧みな包丁捌きなどの発見があり職員は感動するという。献立は職員が交替で作り、焼きそばをおかゆに変えたり職員の優しい気遣いが感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量をケース記録に個別に記入し把握しています。ご本人の体調や状態に応じて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合せた口腔ケアを行っています。また訪問歯科医から口腔ケアの指導もあり、口腔状態のケア把握にも努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できる方はできるだけ、おむつやリハビリパンツの使用はさけ、排泄パターンを把握しトイレへの声がけをしています。	「買い物に行きたい」が排泄への欲求表現であったり、立ち上がる、テーブルを叩く等の仕草での表現を共有しトイレでの排泄につなげている。身体状況により夜間のポータブル使用者もあり、その人に合わせた支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チャックにより便秘の把握に努めています。また予防のため、体を動かす機会を増やしたり、栄養士の指導を得ながら水分や食べ物の工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、ご家族の了解を得て1日おきになっていますが、希望によりいつでも入浴できる体制にしています。	午前中、午後からとほぼ一日おきの入浴支援であり、現在夜間での入浴希望はない。入浴を拒む人でも入浴した後は「気持ちよかった」と喜ばれるので、トイレの後でお誘いしたり、何回か声がけするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安眠、休息できるように、できるだけ太陽にあたるようにしています。眠剤はできるだけ使用せず、眠れないときは一緒におしゃべりをしたり工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し、用法、用量、副作用について全職員が把握できるようにしています。薬の管理は職員で行っていますが、服用の際は手渡し、飲み込むまで見守りしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好品や楽しみごとを把握し気分転換に努めています。園での家事もできるところは一緒にして頂き、張り合いのある生活ができるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出(お花見、ドライブ、散歩、床屋、買い物等)はご本人の希望と職員の勤務体制を調整し行っています。日帰り温泉入浴はご家族とともに楽しんでいます。	季節毎に行事を実施し、温泉旅行や希望による光のページェントへの見物も実施している。通院、買い物、ドライブ、散歩、ベランダでのひなたぼっこ、塩釜神社祭礼への御参りと機会はあるが、今後は個々の満足をより高める外出の機会もお願いしたい。	「嫌がって出かけようとしませんが、出掛けた後は喜んでおり、楽しかったと話してくれる」とのコメントがある。より多くの人々の笑顔と満足のため家族会にも働きかけて、個々へのより楽しめる外出支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことへの大切さは理解していますが、お金は金銭出納簿により職員で管理しています。ご本人が金銭管理することは大変困難になってきています。買い物がある場合は職員が付き添いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も自由にして頂いていますが、一部の方をのぞき意思疎通が難しくなっています。手紙は本人の希望により職員が代筆する事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で安全な空間を作るため、ご家族の絵や、外には花を植えたり、廊下などには休憩できる椅子をとこどこに置いたりして工夫しています。	多くの時間を過ごしているリビングは窓が大きく、自然光が穏やかに差し込んでいる。キッチンで働く職員を目にしながらかち着く場所で居心地良く過ごす様子が見られた。正月飾り、雛飾りなど季節毎に馴染みの飾りつけで目を楽しませ今はクリスマスツリーである	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で、ソファやテレビが設置され、一人でゆったりと過ごせる空間を作っています。各居室には、ご家族の面会時や、入居者同士の談笑のため椅子を置いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に必要性をお話し、馴染みの家具や使い慣れたものを持ってきていただいています。またご本人の体の状態や好みに応じた家具の配置を行っています。	遺影を飾り供え物をするなど落ち着いた生活の一端がうかがえた。自分の家としての感覚をお持ちの方も居て、職員が訪ねると「お茶も出さないで」と話されるという。持ち込みが少なく必要な時は園の予備で設えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの、できること、わかることがその時々で変化していきますがその都度判断し、できることを奪わないケアを心がけています。		